

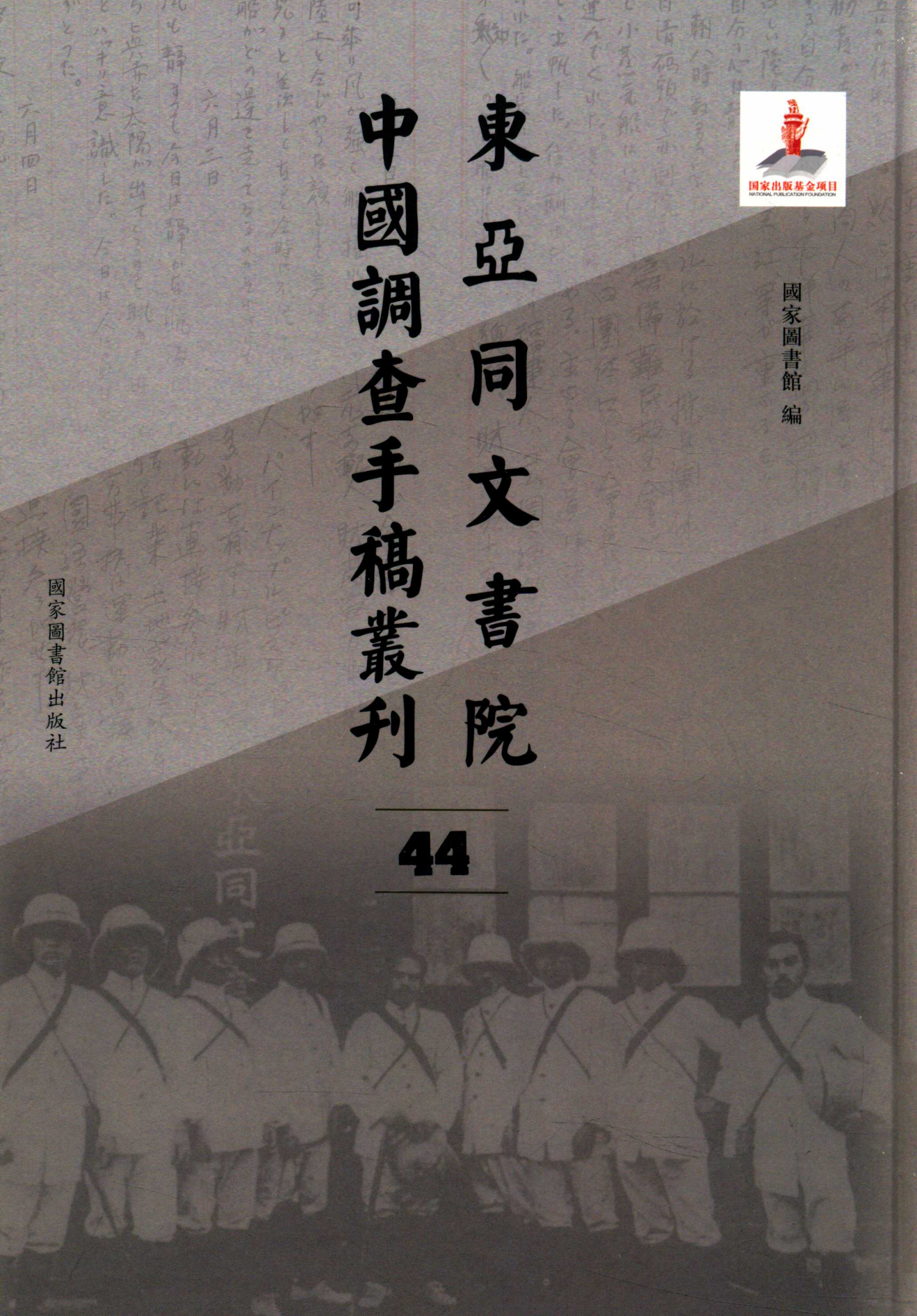


國家圖書館 編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

44

國家圖書館出版社



國家圖書館編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

44

第四四冊目錄

昭和七年（一九三二）旅行日誌（第二十九期生）

竹田芳廣

大坪隆平

中山清一

辻平八郎

永井博

伊達茂

緒方秀夫

第三十六卷 一

第三十七卷 四七

第三十八卷 一三九

第三十九卷 二六一

第四十卷 三七三

第四十一卷 四五一

第四十四卷 五五一

昭和七年度

旅行日誌

上海東亞同文書院
竹田芳廣

附錄

卷之四

五

「はレがき」

大旅行——それは我が日本帝國の東洋平和政策の一つの表現形態である。換言すれば、東洋の安全・諸列強の東洋侵襲に對する亞細亞民族の防衛政策の一つの表れである。同文書院の建設は實に東洋平和の爲めであり、亞細亞民族融合のベルトとしての役目を果す爲めの機関である。従つて、書院の生命とする大旅行は日本人と中国人の民族的・敵對的對立の除去・亞細亞民族融合の目的の爲めであり、亞細亞民族に對する諸列強の不法的侵襲・赤色帝國主義の侵略防禦の目的の爲めであらねばならぬ。

従つて、この重大使命を帯びて我々の大旅行はこの目的
 母貫徹の爲めに、具体的に計画されるはならず、我々はこ
 の計画を具体的に行はなければならぬ。

現瞬間に於ける具体的問題は、滿洲国の問題である、我
 が日本の生命線たる滿洲は、従来軍閥・土匪の爲めに蹂躪
 され、日本の權益は之が爲めに侵害され、否、漸次回收さ
 れるに形であつた。眞に東洋平和の爲めに、日本は止む
 なく自衛權を發動せしめ、土匪・軍閥を殲滅せしむ。
 この戦亂の基から、従来の軍閥政治にあきり滿蒙三
 千万の民衆は獨立を宣言し、王道主義と云ふ理
 想的主義を以て滿洲国統治する事にほり、日滿
 提携の完全は實現が爲まれである。この時、我々

は新興満洲国へ大旅行に出発したのである。勿論、我々は日滿提携の爲めに東洋平和の爲めに、大いに努力すべきである。従つて旅行日誌の内容を爲すものは一般的には満洲国の経済的・政治的情勢、特殊的には満洲事變の経過等であり、殊にサヴェートロシヤの赤色帝国主義の對滿侵略戦争準備・その野心に對して日本が東洋平和の爲めに如何に平和政策を以て戦ひ、この侵略防止の爲めに如何なる犠牲をおひ、如何に国境防衛の準備を爲しつゝあるかである。

辛丑年六月

東亞二五

午前七時三分書院発。午後九時長春丸出港。
學生の見送りに来た者は餘りゐない。書院の
生命とする大旅行の出発は淋しい。

一六二六

青島上陸は今日中困難だと云ふ噂が、青島入港
直前に船中に流れる。船中で一泊から餘り面白くも
はいなあと思ひながら、麻雀で時間を費し、上陸の
宣言を待つて居たが、結局、噂は事実となつて、
停船一泊と宣言された。濃霧の爲めに航行困難
と云ふのだから、仕方がない。検査があつたが、実に
簡單だ。

一六・二七一

直ちに入港上陸かと思つてゐると、検便に約二時間かへり九時頃入港だときかされてガツカリする。然か中国税関から上陸の許可がないので、入港の儘動けぬと。

結局、上陸開始は十一時。先輩に宿泊所の世話をして頂き、海事協会に決定す。

益から青島市をブラウクして、先づ青島の輪廓を頭の中に入れる。

独乙の東洋経営の根據地・中国分割の爲めの独乙の政治的・軍事的根據地であつた青島。今日では日

本帝国の山東に於ける東洋平和政策遂行の重要な地集としての青島。 此処では日本の資本が

既の如く、日本の経済的・政治的勢力が支那的である。これに対して
排日運動、工人のストライキが上海の様に猛烈でないのは、一般
的に青島の支那人の智識の水準が低いからであらうか？

先輩の語によれば、山東出兵によつて日本の威力を現実には
見せられたと。それも面白い。何はともあれ、氣持がよい
市街だ。——勿論市全体の特徴は生産地だ——

午後七時三十分、河南路至東飯店で先輩が吾々の
爲めに歓迎会をして呉れた。
——其ハ一日雪天

商工会議所に行き、青島の商工業の概観を知る爲め
はパンフレットを頂き、次に先輩伊沢氏（商工会議所調
査課）を訪ね、青島の商工業の活動状態を見

体的にきく。――

土橋氏訪問、土橋氏の社会觀、支那觀を面白くきいた。實際は支那の土地で直接に中国人に接してゐる人の意見は何と云ふも矢張り重みがある。

――一九一〇年 晴天

午前十時頃から梅事協会を出かけて、中国旅行案内所に行き、明日出帆の予定である政老公司の廣利号の出帆時間を確かめた上、政老公司以切符を求める。芝罘まで一〇兩と云ふには眼を廻した。青島に於ける調査は格別ない、只日本商工会議所発行のパンフレット位のものを返す。

一日晴天

午前十時、軍艦第一号砲頭^おで行き、芝罘^お行き、廣利号
にある。船長、機関長、船員の三人の日本人がお互に、船債
は、一事も拂つたのは、ぼろい船で、而も金銭代は別だと言て
あるから、機は障つた。機関長の話によれば、切符は先
に買ふ必要はない、四等切符を買つて、船のボーイに手
ばかり酒錢をつかせて、船室をとりは、良いとの事であ
つた。相手は全部支那式にやつてゐるのに、こちらは純日本
式にやつてゐるのだから、勝敗は初めからきまつてゐる。
これらの鯨けだ、船は二〇〇名ばかりのボロ船だ、独乙の
船で昔は相おはものだつたというは、

一五・二一・一 暗天 (船中)

八時頃、パンをカジツて報叙をすすす、昨夜中、ガシク
 ゆい、はめて今日も騒が重い、その水に、水質一、甲板に
 出ると、船は丁度山東角を廻り始めてゐた、我団長
 の話によれば、山東角は航海者にとっては、鬼門だそう
 だ、濃霧。急め、方向を誤つて暗礁に乗り上げ、
 或は衝突して倒れがすくはないと云ふ、山東角の一端に
 危険を如実に物語るものとして、この燈台は、初張である、
 一 二時頃、芝罘沖の劉公島が見え始める、四時
 に、英に東洋艦隊が、古きと劉公島と威海衛の間に
 港を、押しこめるのを見、鄂公、
 英に東洋艦隊、根據地

である、威海衛及び劉公島は王正廷ランプソン協定で西紀一九三〇年支那へ還附せられたが、英國は此の地を東洋艦隊の根據地、補給食地としてゐるので、この協定に於いても今後一〇年間にこの目的の爲めに使用し、満期後は兩國政府の同意する条件で貸與する事を留保し、更に毎年四月上旬から一〇月末迄、英國軍艦の来港技描を許すことも規定してゐるのだから、實質上の還附は爲されてゐない訳だ。

—五・三三—晴天

東華旅社を八時半に出で舢板で劉公島に向ふ。約一時間要し、英國艦隊の向をぬって劉公島に到着。小高商店(日本製陶器、磁器を賣る店)を叩き起す。若い連中